

東京・西城会 → 西城自治振興センター

オンラインで繋がる近況報告 4月18日(土)

創立61年目を迎える東京・西城会の総会・懇親会が東京で開催されました。東京と西城をオンラインで繋いだ交流会も3回目になります。モニターを通して近況を語りました。今回は、西城小学校で50年前(昭和50年・1975年)に校庭に埋められて、今年掘り起こされた、タイムカプセルに収められていたアルバムをスライドにして紹介しました。



出席者(左から)古川由紀さん、高原芳典さん、吉浪謙三さん、田村富夫さん、小林明さん、小林マーシーさん、岡崎優子さん



モニターに映る東京の会場とノンアルコールで宴

また、西城紫水高校の現状と存続についての取り組みを吉浪副区長から東京会場へ伝えました。

近況報告の時間では、稲村さんや小林さんと東京会場の方と、同郷の人の話題などで盛り上がりました。

最後は古川さんのアコーディオン伴奏でふるさとを合唱し、西城との繋がりを強く感じました。笑顔いっぱいの時間でした。

東京西城会オンライン総会にて西城紫水高校の状況について

令和8年4月18日(土)、西城自治振興センターロビーでオンラインによる東京西城会総会の会場をつなぎ交流を深めました。その際、西城紫水高校の存続に関する情報提供を行いました。

現在、広島県教育委員会は、2年連続して受験者数が20名より少ない場合と、5月1日現在で全校生徒数が60名を2年連続して下回った場合、募集停止の対象になるという指針を出していることを伝えました。幸い、西城紫水高校は、今年度受験者数は23名、全校生徒60名が在籍しており、募集停止の対象にはならないことをお話ししました。



古川さんのアコーディオン伴奏により東京の会場と一緒にふるさとを合唱(稲村美智子さん右から2人目)

また、県外からの入学生もあり、29名が寮生であり、16の中学校から生徒が集まっていることも伝えました。毎年、東京へも生徒も一緒になって、生徒の募集を呼びかけていることや今年度、創立100周年の記念行事も行われることを話させていただき、時間があれば是非、100周年の記念行事にもご参加くださいとアピールさせていただきました。

会場には、庄原市長や地元の議員も駆けつけておられ、38名の参加者の方が故郷西城への強い思いを語られておられた姿に、感銘を受け、とても有意義な時間を過ごすことができました。文責 副区長 吉浪謙三



西城紫水高校貢献活動

5月7日(木)



積極的に草取りをしくれます

西城紫水高校3年生10名に西城自治振興センターの清掃活動をしていただきました。半数に別れ、オープンスペースや廊下の清掃と、暑い中、周辺の草取りです。その後、ドローンサッカーを体験してもらいました。きれいになりました。ありがとうございました。



ドローンの操作を直ぐに覚える生徒達



西城暮らしと安心の会

協議体

4月22日(水) 参加者20名

今回からひとり暮らし高齢者等巡回相談員が加わりました。年度が変わり初参加の方もおられ西城暮らしと安心の会の目的等を「西城暮らしと安心のしくみ(図・西城まちづくり便Vol.159-3ページに掲載)」を使って共有しました。今年度は各自治会と関係機関の交流会を実施すること。庄原市いきかたノートVol.2を受け取るにはVol.1に比べ、講習が必要なくなり、西城支所等で持ち帰りできること。民生児童委員広報誌「こんにちは！民生委員です」についての周知がありました。また、防災研修会の実施についての協議を行いました。

おしらせ

先月号(西城まちづくり便Vol.166)でお知らせしました役職名、会長・副会長を区長・副区長に改称にすることについてですが、事由をお伝えしていませんでした。西城自治振興区では振興区でありながら、役職名を会長・副会長としていました。各自治会でも会長・副会長としてあり、紛らわしいとの声もありました。西城自治振興区のまとめ役を区長と呼ぶことで自治会長との役割の違いを明確にする意味もあります。ちなみに、役職名を会長としているのは西城・東城地域で、他の地域の自治振興区は区長になっています。ここ数年の懸案事項でした。

年度替わりに改称するのが良いとの判断で役員会に承認を求めました。西城自治振興区規約の改正は総代会で決議するものですが、規約「第13条5 前項の規定に拘わらず必要やむを得ないときは、総代会に代わり役員会で審議決定し、執行することができるものとする。ただし、この場合には直近の総代会へ報告しなければならない」により役員会で提案し、了承されました。詳細について、お知らせしなかったことをご詫言申し上げます。

芸備線が好き！④

きっかけは、西城の雪景色と芸備線を走る列車を撮影中の男性に田村区長の声かけでした。4月3日、広島市東区から来られた遊川(ゆかわ)真二(しんじ)さんにお話を伺いました。

遊川氏:西城に来るようになったきっかけは、BSテレビで芸備線庄原市応援大使 徳永ゆうきさんが西城に来ることを知り、行ってみようと思いました。芸備線カレンダー2027フォト作品募集に応募するつもりです。前回西城に来たのは3月10日。雪山を背景に芸備線の鉄橋を走る列車を撮影しました。

建築設計をしていました。50歳から比婆山の国有林の杉や檜の搬出を行うため、夏場に一月間、広島から通っていました。8年続けました。神石や戸河内にも行っていました。退職してから山登りを始めました。比婆山には年3回くらい登りました。単独で行くことが多く、カメラの撮影を本格的に始めました。景色や鉄道や鳥などを撮ります。



西城を自転車で移動される遊川真二さん



遊川真二さん(左側)と田村区長

田村区長:芸備線についての想いをお聞かせください。

遊川氏:今日、備後西城駅7:01発の列車で平子まで行き、また、列車で帰ってきました。列車からこの景色がいかを探するためです。川沿いに桜並木があり歩道がありました。まだ咲いていませんでした。他にいい景色があったので自転車で行ってみようと思います。

田村区長:いままでに備後西城駅から乗車されたことはありますか。

遊川氏:初めて乗ったのですが、ゆっくり走ってくれるので景色がよく見えます。今度は備後落合や新見行の列車に乗ってみたいと思っています。便数が少ないので広島へ乗って帰れないのが残念です。

田村区長:これからの芸備線についてのご意見を聞かせてください。

遊川氏:退職して地元のまちづくり協議会で活動をしています。地元の山の登山道の整備や案内をしています。町を守る気持ちが分かります。鉄道が廃止になると大変な事になると思っています。

田村区長:私達は地元の西城紫水高校を守る活動をしています。

遊川氏:地元の県立安芸高校が2年前に廃校になりました。普通科から総合学科になり、地元より他地域からの生徒が多くなり、やがて生徒数が減って行った。何も知らされず、同窓会にも話しがなく、市も反対することもなく、いきなりの廃校でした。地元の高校はなくなり、建物は広島県の埋蔵文化財センターになっています。

遊川真二さんが整備されている二ヶ城山の案内図

町を活性化するため市からの補助を活用し、3月には小学校で桜祭りを行いました。看板を作ったりして登山道の整備をしています。小学生が山登りをしなくなりました。今は山登りの後、温泉に行くのが楽しみです。



遊川さんが撮影された庄原さとやまトレインと桜

「厳島神社春祭」「花見」を開催 明神町愛好会

4月12日(日)午前中に明神山山頂に鎮座する「厳島神社」の春祭を行いました。高齢化のため現地で催すことが難しいため愛好会館で実施することとし、前日に役員で清掃をおこない鳥居と社殿のしめ縄を張り替えて準備しました。

午後からは全政寺境内にて花見を開催しました。去年は天候不良のため中止となりましたが、今年は天候に恵まれにぎやかに開催することができました。

明神町愛好会 会長 山田晃久 談



桜咲く境内でテントで日よけをして花見を開催

金屋子神社公園清掃作業

4月5日(日)

毎年、4月の第1日曜日に行う恒例の清掃作業です。金屋子神社公園と五日市公盛会館の清掃作業が行われました。多くの方が参加されました。

良い天気にも恵まれ、公園では桜も咲き始め、清掃作業の合間に会話もはずみます。五日市公盛会自治会員の全体が集う機会でもあります。公園までは長い階段がありますが登り切ると眺望が楽しめます。参加者の皆さまお疲れ様でした。



五日市公盛会のみなさん